

【ねらい】

前年度の自身の教育・保育を振り返り、気づきや課題を見出し以下の達成に努める。

- ①「個々の発達が保障される環境（人・もの・事）作り」
- ②「心を育てる教育・保育の大切さ（受容・共感）の実践」
- ③「自己研鑽とチームと教育・保育の意識を高め保育理念を達成」

1. 教育・保育理念実施（全面受容・共感保育）について

子どもの人権を尊重し、各年齢の一人ひとりの発達段階を理解しながら指導計画を作成し、園の教育・保育理念、目指す子ども像を実践している。

また、教育・保育理念達成に向けて、職員の研修と自己研鑽を通して質の向上とチーム保育の意識を高めている。

特に今年度は子どもの全面受容と共感することに、より意識を高め、ハグや大好きという言葉かけを実践することで愛着関係を築き、自己肯定感に繋げた。子どもの声を心で聞き、安心できる存在になれるように、また、職員同士助け合って教育・保育が出来るように、話し合いを多く持つことを意識した。

また、忙しかったり時間に余裕がなくなると大声を出してしまったり、子どもを急かしてしまうことがあるので、気持ちを落ち着かせ、どんな時でも子どもを一番に考えた対応を心掛けていることを意識し、実践していることを評価する。

2. 子ども理解と対応について

子どもたちの遊びの様子や興味関心に目を向けて、コーナー教具や玩具の準備を行い、教育・保育活動に取り入れる工夫を行うことができた。子どもたちと一緒に環境づくりに取り組み、意欲・心情・態度を育めるよう子ども理解に努めてきた。

非認知能力を育む人的環境として全体を見守りながら、一人ひとりに声を掛け、「どうしたら良いかな？」と自分で考え行動できるような言葉かけをし、待つ姿勢を心掛けた。また、様々な場面で、見守る際には注意を促すことよりも、良い場面を見逃さず言葉で伝えることを大切に出来た。

また、結果を求めるのではなく、そこに至るまでの努力や課程を大切に、挑戦し頑張ったことを「認め、褒め、大事にする」ことを心掛けている。一人ひとりの思いを受け止め「そうだね」と共感すること、自己主張を認める（承認）ことが自己肯定感に繋がっていくことと子ども理解を深めている。

子ども主体の教育・保育では、子ども一人ひとりの興味・関心を見つけそれを活動や遊びに取り入れ深めていった。今までの教育・保育にとらわれず、担任間で保育観

を共有し、個々のやりたい気持ちを尊重し、遊びを展開し、日々の業務の忙しさにと
らわれず子どもが主体であることを胸にとめている。

子ども理解には保育士のふり返りが大事で、何が足りていないのか、足りないもの
を学び補っていく謙虚な姿勢を持ち、あせらない、あせらせない、ゆっくり余裕を持
ち、全職員が子どもたちの気持ちに寄り添い教育・保育を実践していることを評価し
ている。

3. 望ましい保育士等としての資質や態度について

子どもたちの受け止めてほしい気持ちを理解し、触れ合う時間を大切にすること
で、より楽しい教育・保育を行うことが出来た。

また、安心できる環境を整え、子どもたちの「やってみたい」という意欲が現れ、
様々なことに挑戦する機会を設けることが出来た。

就学に向けての取り組みで、保護者と家庭や園での様子を共有し、安心して一年生
を迎えることができると保護者の喜ぶ姿がある。

人が育つには人が必要であり、受容と共感をもってより良い人間関係を築けること
を理解し、これまでに会った人たちのおかげと感謝し、様々な経験の中で成長でき
ることを意識し心に余裕を持つことで、自分の自己肯定感を高めていけることを大事
にしているが、時にはなぜやってくれないのかと思うこともあるので、役割や分担を
しっかり決める必要がある。人は十人十色、考えも違うが、相手は変えられないので
やり方や見方を考えながら自分が変わり、人間性の成長を意識していることを評価し
ている。

4. 保護者支援について

日々、仕事・家事・育児に奮闘する保護者の気持ちを全面受容と共感で向き合うこ
とが出来た。それは日頃から子どもの良いところ、日々の成長を共有し、明日への活
力となるように話しやすい、相談しやすい・安心できる等の信頼関係の構築を意識
し、保護者支援に携わっている。

子育て支援を行う際には、各地域や家庭の実態等を踏まえるとともに、保護者の気
持ちを受け止め、相互の信頼関係を基本に保護者の自己決定を尊重している。ほかに
保護者の受容、プライバシーの保護や守秘義務などの基本的姿勢を踏まえ、子どもと
家庭の実態や保護者の心情を把握し、保護者自身が納得するようにコミュニケーション
を大切にしていることを評価している。

今年度は、非認知能力を育むために子どもの全面受容と共感を保護者と共有し、保
育理念を目指し教育・保育の実践に努めたことを評価している。

幼児教育・乳児保育に健康及び安全、食育の推進、環境及び衛生管理並びに安全管

理、災害への備え、保護者支援・子育て支援を専門リーダーと職務分野別リーダーが中心に研修を実践し、質の向上につなげている。

今年度もこども園の教育及び保育において、育みたい資質・能力である「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」を乳幼児期にふさわしい生活を通してしっかり育み、意欲や学ぶ力を養い、子ども一人ひとりの資質・能力を育成することを目指し就学に繋げたことを評価する。